

日不學而有來日[朱熹、

## う日学ばずして来日有りと謂う こと勿かれ

も明日がある、 などと言って



専任講師 貀 

## ブロフィール

育研究科にて保育者の人間性について研究し、 成を行っています 大学で哲学を学び、企業等で勤めた後に保育の世界に 育学修士を取得。 現場経験と研究をもとに、 保育者養 **人る。保育園長を務めながら武庫川女子大学大学院教** 臨床教

2024.4.1

# しょうか。 ―記憶の中、 最初に自分で買った本は何で

勢を、 逆境に負けずに懸命に生きていくという姿 傍の石」を読んだ記憶が蘇ってきました。 にヘレン・ケラーの伝記や山本有三の『路 できませんでしたが、小学校高学年のとき に思います。 最初に自分で買った本を思い出すことは 私の深くに植え付けてもらったよう

# 最近買った本は?

ております するものです。こども学を学ぶ本学の学生 には、もっと関心をもってもらいたいと思っ 「子どもの権利」や「不適切な保育」に関

# -好きなジャンルは?

究室訪

問

思っております。 人の営みすべての根源に関わる分野だと 哲学・思想、宗教学に関するものです。

幅を広げていかなければなりません。

していくためにも、

私自身、

もつと読書の

# らをより多くご利用でしょうか。 本を買う時、ネット書店と本屋と、

ほしい本が置いてある書棚の中に、興味を とばかりです。けれども、書店や図書館で、 ひく関連書籍を見つけることが好きです。

穏やか

# ―いま、お手元に読んでいる本は?

会いとしての真理」です。キリスト教神学 挙げるなら、エミール・ブルンナー著『出 の答えの一つがありそうです。 ですが、この中に保育者の人間性について 色々と並行して読んでおりますが、一つ

# -時々読み直す本はあるでしょうか

出発点と終着点が、これらにあると感じて の研究」、西谷啓治著『宗教とは何か』、木 村敏著『あいだ』でしょうか。私の研究の おります。 どれかと聞かれたら…西田幾多郎著 善善

# を選びますか。その理由は? -もし蔵書の中一冊だけ選ぶなら、どの本

そうですが、私は上田閑照・柳田聖山著『十 牛図」かな。悟りをひらいて、この境地に なら、司馬遼太郎は『歎異抄』だといった 立つことができたら…。 無人島にたった一冊だけ本を持っていく

# -読書の醍醐味は?

もあります。自分の考えや生き方を確かに ださい。それは、新しい自分との出会いで 読書を通して、新しい世界と出会ってく

最近は、便利さからネットを利用するこ どち なら、今からでも美しくできるかな…。 こる出来事、すべて私にとって意味があるの らもらった言葉「人間が錆びないように、 に受け止めたいと思っております。生き方 だから、成長の機会にするためにも、 の間でもまれておいで」です。出会う人、起 私のことをよく分かってくれている人か 座右の銘をお教えください

# - 学生にぜひ読んでもらいたい本は?

学ぶことで、自分自身の囚われから解放さ ヴィッド・フォスター・ウォレス著『これ りたいなと思っているものの一つが、デ ように思います。 れて、自信や希望を取り戻すこともできる は水です」です。他者の視点に立つことを 私のゼミで学生と一緒に読めるようにな

# ドバイスをお願いします -読書について、学生、 特に新入生へのア

紹介された本を、たとえ最初は興味を持て 得るものは大きいはずです。 なくても、ぜひしがみついて読んでくださ い。憧れの人、尊敬できる人、信頼できる できる人・呼びたい人がいれば、その方に 人の「人間」をつくっている一冊ですから、 皆さんそれぞれに「先生」と呼ぶことが



懇のあいだがらであると聞いていた」から る魯迅に会わせてもらおうと、内山書店に 上陸し、一段落つくと、名だけを覚えてい 頭しなければならない「すこぶる不自由 行猶予5年の判決を受け、国外脱出どころ 細に語っている。 当時、彼は懲役2年、執 向かった。書店の主人内山完造は魯迅と「昵 するか、どんな手がかりがあるのか、それ 行きの船に乗った。「中国に渡ってなにを 込んで、その年の1月15日に神戸から青島 彼は偽名を用いて剣劇の遠山満一座に潜り 不如意な境遇にあった」。脱走を決意した 鹿地亘は1936年の日本脱出の顛末を詳 には自信も成算もなかった」彼は、上海に 東京での転居も一々裁判所と警察に出 後に出版した『中国の十年』の中で、

きる。私は、魯迅に会って、出獄以来はじ ときの歓喜をいまも憶いうかべることがで と感じとった。それ以外の人でありえない、 ぐに私たちに近づいた。(中略) 私はその ちつきで、彼はゆったり歩を運び、まっす は魯迅の写真を見たことさえもなかった 約束の時間ときっかりに店頭に現れた。私 の第一印象をこう回想している。「魯迅は が、彼が入り口に現れた瞬間、本能でそれ 人品とでもいうか、あたりを鎮まらせる落 内山書店で魯迅と初対面した鹿地は魯迅

> けの水のように、私の胸いっぱいに流れ出 とのない脱走以来の緊張が、その、 完造を「第二の父親」として敬い慕った。 の導師」、保証人を引き受けてくれた内山 し、満ちあふれた(②)」。後に鹿地は魯迅を「魂 かで温かいことばに接しながら、春の雪融 に心を満たされた。一刻も気をゆるめたこ めて、しみじみと、生きていたことの歓喜 物しず

登場している(4)。 地君来訪」と鹿地亘の名前が幾度も日記に 同6日に「鹿地君に返信」、同15日に「鹿 魯迅が日記や書簡に言及した日本人は10人 から、9月3日の日記に「鹿地君から書簡」、 を超えているが(③)、鹿地亘と知り合って の後二人は頻繁に往来して、交流を深めた。 魯迅も初対面で鹿地亘と意気投合し、そ

中国文学の覚え書」(『文学新聞』、193 と考えた(5)」。「上海通信」(『文芸評論」、 魯迅に助言された鹿地亘は、文学翻訳紹介 はその一部であった。 -」(『日本評論』、1936年11月) 等々 6年8月1日)、「上海からの報告ー海寧路 1936年3~4、6月)、「魯迅と語る の仕事の傍ら、「できるだけ様々のレポー (『文芸』、1936年5月)、「上海通信 トを自分の眼で見たままに日本に送りたい 「自分の目で、何事もゆっくり見よ」と

鹿地亘はまた上海地元の邦字紙『上海日

ぞれふる夕べに』を出した。避難民と思わ の一節である。 れる一家の惨状を描くもので、以下は冒頭 の紙上に「W・鹿地」の名前で散文詩『み 報』にも寄稿した。1936年3月8日付

與内山記念書局」で行われ、上海地元のメ

ディアの報道もあって、多くの市民が訪れ

男は一行の先頭に むれの旅人が歩いてゐた。

やゝおくれて妻がそれよりも小さい包を

の書籍の輸入

入れるという。 と販売に力を 今後日本で刊行された中国文化や上海関連

に内山書店を訪れたことに因んだもので、 27年、広州から上海に移り住んだ三日目 名にある数字「1927」は、魯迅が19

重みに肩に垂れてゐた

力のない泣き声をとぎらせてゐた。 そのあとに男の子が足をもつらせて 時々苦しげに息づかひ 老母は土嚢のやうに杖に身をもたせ

多倫路25弄34号)の鹿地亘の仮寓を訪問し と共に、病を押して竇楽安路燕山別墅(現 紙を大分の両親に送った。 鹿地亘も参列し、出棺時の様子を認めた手 り、19日の早朝世を去った。魯迅の葬儀に しかし、その日の夜、魯迅は重篤状態に陥 の中に漂然と、別れを告げて去った。。」。 気が冷たくなった頃、彼はまた、かぜの街 を忘れて話しあった。(中略) 夕方の、空 両国の作家らの話について、時のすぎるの 幼時の思い出、死について、幽霊について、 た。鹿地夫妻は「大喜びで彼を迎え、茶を いれて、その日の午後を通し、よも山の話 1936年10月17日、魯迅は親友の胡風

て公開された。展示会は「1927・魯迅 4月に開かれた「魯迅重要文献展」で初め その手紙の現物は、87年後の2023年

みだれに濡れて行く租界の舗装路を、

街虹口の新たなランドマークとなった。店

旧内山書店の8倍もあり、上海の旧日本人

昔日の内山書店の旧跡を、一年近くをかけ

た。「1927・魯迅與内山記念書局」は

て大規模的に改装したもので、売場面積は

もはや縞目の見えぬ大きな布呂敷包みを

(6) 同 622 (5) 同 (1) (624 33 ~ 34 頁 (4)「魯迅日記」第二巻、 (2) 同右、22~23頁 (3) 周国偉「魯迅與日本友人」、上海書店出版社、2006年 (1) 鹿地亘『中国の十年』、 一時間で、これでは、またで、からって、ひとって、私にりい様をして、一時間で、これでは、多い世界が、大きなは、大きなは、大きないないとして、私にりい様をして、いたって、からって、からって、からって、から す、父の在、多山里無い降り、聖中は、動吧、時 人民文学出版社、2022年1月

1948年3月、3~4、6、 18頁 鹿地亘の手紙の一部

1927·魯迅與内山記念書局

**建为的动脉放射** 

地亘も、それ

内山完造と鹿

泉下の魯迅、

を知ればきつ

かべるだろう。 と微笑みを浮

### 図書館開催イベント

### 2023年度 後期「学生選書」を開催しました。

〇選書ツアー:2023年11月30日(木)ジュンク堂大阪本店にて参加者:7名

OWEB選書: 12月1日(金)~6日(水) 参加者:8名

今回選ばれた図書56冊です。図書館1F学生選書コーナーに配架しています。





自分が知らなかった本が 見つかると思う

自分ではなかなか本を買う機会がないので、この機会に自分が読んでみたい本を選ぶことができてよかったです。 たくさん選べることも良かったです。





色々な本を手に取ってみることができて良い思い出になりました。また、 絵本などが好きなため「こんなにあるんだ」と友達と話しながら新しい 発見ができたのも良かったです。



本で、たくさん学べるものだと思う。 世界観も広げてくれたり言葉の勉強 ができたりすると思うので、どんど ん本を読んでいきたいと思いました。



### 2023年度

## 手作り絵本コンクール

### 受當作品

3回目となりました今回、エントリー数も毎回増え70点の作品が1階閲覧室に並びました。

最優秀賞『サーちゃんのおつかい』 こども学科 3年 佐々木結さん

優秀賞 『朝の準備』

こども学科 3年 **水野咲希**さん

優秀賞 『カレーライスつくろう』 実践保育学科 2年 吉崎みなさん

ほか佳作3名

受賞された皆さんおめでとうございます。 また、多くの皆さんにエントリーしていただき、投票にも参加していただき、誠にありがとうございました。



おめでとうございます

### 【2024年度図書館主催イベントの予定】

◎「リサイクルブック」:5月

◎「手作り絵本コンクール」:11月末締切

◎「学生選書」: 前期(6月)・後期(11月)選書ッアー&Web選書

◎「学生選書」: 前期(6月)・後期(11月) ◎「読書感想文コンクール」: 12月末締切

RECOMMENDATION

## 『中国料理と近現代日本食と嗜好の文化交流史』

岩間一弘編著

(慶応義塾大学出版会)



(請求記号383.822/C62)

本書は序章を入れて17の論考から構成され、2016~17年の2年間にわたって実施されたユニークな共同研究プロジェクト「中国料理と近現代日本」(高橋産業経済研究財団助成)の成果で、中国料理を中心に据え、日本及び東アジアにおける食の文化交流を歴史、政治、社会等の視点から緻密に考察している。

日本の中国料理の過去と現在、中国料理の名称、戦時下中国の日本人俘虜の食事、華僑によって日本に定着された中国料理の数々、興味深い逸話も随所に散りばめられていて、料理の分量に例えるならば、まさしく「ボリューム満点」の一冊である。編著者の岩間一弘は上海の社会史を専門とする東洋史研究者で、ここ数年中国料理に関する文化史研究を精力的に取り組み、近著に『中国料理の世界史』などがある。

### 『アジア・太平洋における 日本語の過去と現在』

今村圭介 ダイニエ・ロング編(ひつじ書房)



(請求記号810.9/A27)

16章からなる本書は、第1章の 冒頭の言葉を借りれば、「戦前日本の帝国主義による領土拡大の 影響からアジア・太平洋に広 がった日本語の過去と現在を記 述するものである。(中略) 長年 各地で調査研究を進めてきた著 者12名が各地の状況をまとめあ げ、旧植民地等における日本語 の影響の全体像を描こうと試み

た」ものである。ここでいう「各地」は、朝鮮、台湾、 現在中国東北地域の「満洲」、パラオ、オホーツク海沿岸 域などを指し、影響を与えあう「残存した日本語」「日本 語からの借用」「接触言語」の角度から「日本語の過去と 現在」を探究している。授業時間数や教員数の変化等の データもあり、旧植民地における日本語教育事情を俯瞰 できる一冊である。

RECOMMENDATION

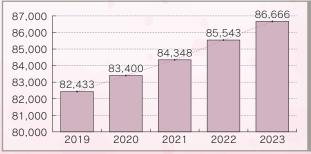
### 『沖縄の生活史』

石原昌家・岸政彦監修 沖縄タイムス社編(みすず書房)



(請求記号219.9/052)

日本復帰50年の節目の年に、沖縄の歴史とともに生きてきた人々の来し方を聞き取り、文章に残そうと沖縄タイムス社が企画した貴重な証言集。沖縄タイムス社の紙上での募集に応じた百名の「聞き手」は、百名の「語り手」からその生い立ちや人生を聞き取って生活史として仕上げた。目次の構成も独特で、「語り手」の言葉を抜粋してそのまま使っている。そのため、この一節はどのような内容なのか、目次を読むだけで凡そのことが想像できる。例えば、冒頭の一節の目次は「あの時の東京はね、お店の正面に「沖縄者お断り」って書いてあったんだよ。野蛮人と言ってから」となっている。また「本土に来てから、青森や鹿児島とか難しそうな方言を使っているのに、何で沖縄だけ禁止になったわけってすごく腹がたったね」、「九ハドルだったら生活やっていけたけど、三万六〇〇〇円では生活やっていけなかったね」、「この差があるわけ、ここは下。外人は上。事故しても外人が事故しても、何にも関係ないのに」等々も同様である。855頁もある分厚い本だが、どこから読みはじめても共鳴や感動を与えてくれる。沖縄庶民の生活はこの一冊に凝縮されている。



(2019~2023年) 和洋書蔵書数の推移 附属図書館



7/2/3



2024年4月1日発行

編集·発行東大阪大学・東大阪大学短期大学部附属図書館

大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1

TEL: 06-6782-2837 FAX: 06-6782-2839 http://www.higashiosaka.ac.jp\~library\